



たいむ

■子どもの“こころ”の育ちを見守ることで、日本の社会は変わるかもしれない■

我が短大生をはじめ、日本の若者は「自己肯定感が低い」と言われます。高校生への文科省の調査(2009 - 2011)は、自己評価が低く、社会に不安や諦めを感じる若者の姿を象徴しています(↓)。

「私は価値のある人間だと思う」；日本 36.1%、米国 89.1%、中国 87.7%、韓国 75.1%。

「私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない」 日本 30.1%

「私個人之力では政府の決定に影響を与えられない」 日本 80.7%

若者の自己肯定感の低さは、育ちの過程で徐々に積み重なってきたものといえます。若者が自信と期待を持って社会に出るためには、子ども期にいかに認められ、その結果として、自己肯定感を持ってたかに尽きます。

子どものこころの育ちにとって大切なことは、結果ではなく、その意欲や感情を認め、「なぜそうしているのか」について、子どもの気持ちを周囲の大人が汲み尊重することです。子どもには生まれた直後から「こころの原型」が備わっているといわれます。生後1か月でさえ、空腹感・不快感を「泣く」ことで伝え、音の区別はつかない状態でも、人の声に首を振って見ようとし、やさしく話しかけられれば心地よさを感じます。手が自由に動くようになると、自分からなめたり、振ったりして確かめます。興味ある場所に行けるようになると、大人をはらはらさせる程、いろいろな場所やモノに興味を持つようになります(探索活動)。イヤイヤ期の行動は、大人にとって問題ある行動に見えますが、子どもが「自分でできる」「やりたい」という意欲・感情の芽生えの時期でもあり、自分で社会の中で立って歩むために、発達上欠かせないことです。

こうして、2歳くらいまでの間に、「他者への信頼感」と「自己への信頼感」を獲得します。他者への信頼感とは、安全・安心が確保され、泣きに応じられることによって生まれる大人への信頼感であり、自己への信頼感とは「やりたいことができる」という自己への信頼感です。3歳以降になると、ルールや社会性、自我のイメージをコントロールできるようになり、自分で考え、自分でやろうとするようになるのです。

選挙権を18歳の若者が得ることは、自分の考えを堂々と表明し、自分の責任で社会に参加する機会となります。自分の社会参加により社会を良くしようと思う若者を育てることは、大きなことでも難しいことではなく、案外、目の前の子どもを認め、心の育ちを見守ることを積み重ねることなのかもしれません。今年も良い年になるようご祈念致します。 石井章仁(いしい・あきひと)

■ クリスマスツリーを飾ったよ！ ■



12月3日(木)、たいむに遊びにきていた2~5歳のみなどとクリスマスツリーの飾りつけをしました。

スタッフがツリーの箱を出してくると、「もしかしてクリスマスツリー？」と興味津々の5歳のFくん。「みんなで一緒に飾りつけしよう」とスタッフがみんなに誘いかけると、どの子も「やりたーい！」と大きな声で答えてくれました。

お母さん方のアイデアで、折り紙のサンタクロースや雪だるまが出来上がり、Fくんが折り紙でキャンドルを作ると、4歳のNちゃん・KちゃんもFくんを真似て折り紙でキャンドルを作り始めました。どんな物ができるのかと見守っていると、Fくんのキャンドルは《千代紙を使った和風な物》、Nちゃん・Kちゃんのキャンドルは《炎が緑やピンク》と、とても個性的な物に仕上がりました。2歳のMちゃん・Tちゃん、3歳のYちゃんはツリーにボンボンの飾りをつけました。大人は、子どもたちのユニークな折り紙の作品や言葉のやりとりに思わず笑ってしまったり、サンタさんからのプレゼント話で盛り上がったりと、にぎやかな時間でした。

子どもたちが自分で考え、時には友だちの真似をしたり、比べ合ったりしながら、みんなで完成させることができました。また、4・5歳の子もたちは、「ここに飾れるよ」など自分よりも小さな子を気づかう姿が見られました。このように、自然な子ども同士のかかわりにも子どもたちの成長をしみじみと感じます。

みんなで飾りつけた素敵なクリスマスツリーは、他のお母さん方から「おもしろい飾りだね」「オリジナルな感じがしてかわいいね」と大好評でした。飾りつけをしてくれたみなさん、ありがとうございました。(本田)



■ わらべうたサロン ■



12月18日(金)、古山先生によるわらべうたサロンがあり、初めての方も久しぶりの方も一緒に楽しみました。

今回も6名の1年生と一緒に参加しましたが、最初はとても緊張した様子でした。しばらくすると、古山先生とお母さん方の楽しそうな様子と子どもたちのかわいい仕草に学生も緊張がほぐれたようで、今回も笑いが絶えませんでした。

「このこ どのこ かっちゃんこ」「馬はととし」「こりゃどこの地藏さん」など耳に馴染みやすく、体を使うので子どもたちに人気があります。

わらべうたの途中でも玩具で遊んだり、気になる場所へと遊びに行ったりする子もいますが、無

理強いはしません。普段の子どもたちの様子やお母さんとのかかわりを見られることは、学生たちにとっても学びになりますので、ぜひお気軽にご参加ください。

次回は1月22日（金）です。皆様のご参加をお待ちしております。

■ 大人のためのクリスマス会 ■



12月24日（木）、大人向けにクリスマスをしようということになり、Barをイメージして室内の雰囲気を少し変えてみました。まず内容として、本学教授の明石先生のクラシックギター演奏から始まり、続いて大人向けのクリスマスの絵本をスタッフが読みました。最後にはシャンメリーで子どもたちも一緒に乾杯し、ちょっとしたおつまみをつまみながら、みんなで談笑しました。

明石先生の演奏はとても好評で、2～5歳の子どもたちもソファに座り、静かに聴き入っていました。クラシックの他にも「星に願いを」「青春の輝き」など、馴染のある曲もありました。この日は教員も演奏を聴きたいむまで足を運んでくれ、大人たちもゆっくりと楽しむことが出来たように感じています。演奏の最後は「きよしこの夜」で、子どもたちが鈴やかスタネットを持ち、大人たちが唄う歌と演奏に合わせて合奏を楽しみました。今までは静かに聴き入っていた子たちでしたが、楽器が出てくると「鈴がいい」とほとんどの子が鈴を嬉しそうに選んでいました。しっとりとしたギターの音色に鈴の音・カスタネットの音が合わさり、とても味のある素敵な合奏になりました。

スタッフが読んだ絵本は「急行「北極号」」「クリスマスのほし」という2冊です。時々、子どもたちからのリクエストに応じて図書館で絵本や紙芝居などを読むことはありますが、大人向けは初の試みです。長い時間でも、意外にも子どもたちも集中して観ていました。絵本の読み語りの後に、「お話すごくよかったよ」「この本、ゆっくりと読んでみたい」など、お母さん方にも喜んでいただけました。子どもたちも一緒に観ていることで、スタッフの緊張が少し和らいだように思います。



Barという設定なので、室内（廊下）にはキャンドルなどを飾り、大人な雰囲気を作りました。乾杯し、個々にお渡ししてお菓子やテーブルに用意したおつまみ（チーズやクラッカーなど）を食べましたが、いつもと違う雰囲気にお母さん方も楽しそうでした。立食、あるいはソファに座りながらと、それぞれのスタイルで過ごしていただき、スタッフはカフェエプロンをつけておもてなしをしました。お土産には廊下にラッピングしたチョコレートを飾り好きな物を選んでいただきました（数個だけちょっと

リッチなチョコレート入りだったので、どれにしようかとみんなでも盛り上がりました)

子育て中のスタッフの一人が、明石先生の演奏を聴いて「カーペンターズで泣きそうになっちゃった」と話していましたが、お母さん方は普段ゆっくりと何かを楽しむということは難しいのだなと改めて感じました。子育て未経験の私にとってはいろいろと皆さんから教えていただくことが沢山あります。その中で、自分はどのようにお母さん方とかかわり、どのようにたいむで過ごすべきなのか。また、たいむの在り方などを考える良い機会になりました。(本田)

♪ 明石先生の演奏曲リスト ♪

- ① ワルツ (スペイン)
- ② ラグリマ (涙)
- ③ 青春の輝き (カーペンターズ)
- ④ 星に願いを
- ⑤ アルハンブラの思い出
- ⑥ きよしこの夜 (子どもたちと一緒に)

.....

～ もちつきのお知らせ ～

今年もみんなで力を合わせてお餅をつきませんか？
お父さん・お母さんのお手伝い大募集！（くわしくはスタッフまで）
【日 時】1月16日（土）11：00～13：30くらいまで
【場 所】短大別館 中庭
【持ち物】皿・箸・飲み物・
餅につける物（のり・しょうゆ・あんこ・きな粉など）



千葉明德短期大学 育ちあいのひろば たいむ

【住所】〒260-8685 千葉市中央区南生実町1412 【短大代表番号】043(265)1613
【たいむ・おやこのじかん TEL】 043(332)2103 【E-mail】oyako@chibameitoku.ac.jp
【HP】<http://www.chibameitoku.ac.jp/tandai/hotstation/hotstation.html>
【facebook page】<https://www.facebook.com/hottostationtime>
